

	課題分析	授業改善策
国語	<思考力・判断力・表現力の育成> ・書かれている内容を正確に理解し、その上でどの内容について興味・関心をもったか明確に示すこと、目的に応じて自分の考えを的確に表現することに表記を含めて課題がある。 <話し合い活動の充実> ・発表、話し合いの場で、自分の考えが伝えられず、積極的に活動に参加できない生徒が一部いる。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・生徒にルーブリックを用いて学習のねらいを示し、生徒が目標をもって活動をできるようにする。 <話し合い活動の充実> ・発表や話し合いの例を、教科書や動画などで提示したり、リハーサルを見合ったり、話し合いを相互評価したりする学習活動を取り入れる。
社会	<思考力・判断力・表現力の育成> ・グループ活動で対話をしているが、その内容を言語化する能力が低いいため、文章を作成する課題でも、1行で終わってしまう。キーワードを使って、文章を作成することを促してもできない生徒が一部いる。 ・また、取り組む前に諦めてしまい、提出に至らない生徒もいる。 <話し合い活動の充実> ・全員が、内容を理解していなければ話し合いが進みにくい。 ・個人差、グループ間の差が大きくなりやすい。 ・グループ活動になると、全く話をしない生徒もいる。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・繰り返し課題を設定し、取組を継続し、チャレンジできる機会を増やす。 ・最初は、例文を示しその文章を基に、文章を構成できるようにする。 ・ルーブリックなどの基準を示し、生徒が活動しやすいように留意する。 ・文章作成だけでなく、表や図などで表現させる活動も取り入れる。 ・後日提出になると、提出できない生徒も多いため、課題を提示したその場で回収する課題を意識的につくる。 <話し合い活動の充実> ・能力の低い生徒も、他人の意見を取り入れる手段になっているため、活動を継続させる。その際、教員の声かけを大切にする。 ・1年次は調べたことを伝える活動から始め、3年次には、自己の意見を形成し、伝える活動に深化させられるように、教員が見通しをもって活動する。 ・調べたことを伝達する「伝え合い」と意見を深化させる「話し合い」を区別して、指示を出せるようにする。 ・話し合い基本ルールなどを浸透させる。 <(例) た・さ・ひ・よ> 「助けを求めて良い。最後まで聞く。否定はしない。良い雰囲気をつくる。」
数学	<思考力・判断力・表現力の育成> ・思考力や判断力の土台となる必要な知識・技能が身につけていない生徒や、数量の関係性等を言語化できない生徒が多い。自身の理解度を把握できない生徒がいる。 <話し合い活動の充実> ・内容を理解する、個人で問題を解くための時間が多く、話し合い活動の時間を確保することが困難である。数学的に言語化できる生徒に偏りが見られ、話し合いによる問題解決が十分に図られていない。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・基礎的な知識・技能が定着するよう、繰り返し練習する時間を確保する。授業の振り返りを通して自分の理解度を把握させる。表や図などを用いて内容の理解を促す。 <話し合い活動の充実> ・基本的な問題を個人ではなく、グループで解くようにする。話し合いのルールを明確化し、生徒に伝える。また、理解度によらず様々な考え方が生まれるような題材についてグループワークを行う。
理科	<思考力・判断力・表現力の育成> ・実験・観察を行い、結果を深く考えて表現することが苦手な生徒が見られる。また、作図が苦手な生徒が多い。 ・応用的な課題を自分で考えてまとめる力が弱い。 <話し合い活動の充実> ・興味・関心がある内容は、発言が活発に出てくるが、興味・関心が無い事や難しい内容では発言が消極的になってしまう傾向が見られる。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・よく書いている生徒のレポートを、名前を隠して表示して、どのようにレポートを書けばよいかを示す。また、作図が苦手な生徒に作図プリントを配布し繰り返し練習させる。授業中に小テストを行い応用的な力をつけさせる。 <話し合い活動の充実> ・話し合い活動ができる授業環境作りをする。タブレットを使い調べ学習を充実させる。視聴覚提示装置を使い、発表を行う。

音楽	<思考力・判断力・表現力の育成> ・生徒の振り返りを見ると、知識と技術的な面については身に付いてきており、課題解決への道筋を考える力が付いてきていることがうかがえる。 ・一方で、考えた解決方法と実際の表現への乖離があるため、指導内容の工夫と境面でのサポートが必要である。 <話し合い活動の充実> ・小集団の育成を目的にした活動を展開。リーダー等のも主導で話し合いながら歌唱練習する方法を学び、自らの表現の課題を発見することができた。解決の手だてが有効であったかを検証させる必要がある。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・歌唱・鑑賞活動を通じて得た知識をもとに、ICTの活用をしながら、より良い表現を追求し、クラス合唱の完成を目指す。課題に対し解決の方法が適切であるかを考えさせ、技能面の支援をしながら表現力につながる環境の醸成を試みたい。 <話し合い活動の充実> ・指導者はアドバイザーの立ち位置を貫き、ファシリテーター役のリーダーを中心に主体的な音楽活動を展開する。話し合いに終始することなく、自分の表現を客観的に批評できる力を同時に育成していく。
美術	<思考力・判断力・表現力の育成> ・目に見えないものを想像し、描写する力があまりない。また、どの学年も授業への取組は良好であり落ち着いて集中できているが、アイデアが浮かばないまま放置してしまう生徒やこだわりをもたずに短時間で完成させる生徒がいる。 <話し合い活動の充実> ・個人で制作する場面が多く、話し合い活動をする場面が少ない。そういった場面があっても、積極的に発言する生徒が少なく、情報を伝え合うだけで話が深まらないことがある。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・発想、構想する力を伸ばすために、様々な作品や写真をタブレットで調べて参考にしながら、活動させる。その上で、より良い作品にするために適切なアドバイスをを行う。また、生徒同士の作品鑑賞時間を増やし、より細かく作品を仕上げる力や向上心を養う。 <話し合い活動の充実> ・タブレットを有効活用し、美術作品などの鑑賞を通してグループでの話し合い活動を活発化させる。また、題材ごとに作品を鑑賞し、見る力や自分の考えを伝える練習を行った上で話し合い活動を行う。
保健体育	<思考力・判断力・表現力の育成> ・個人やチームの課題発見の場を設ける機会が少なかった。また、互いに教え合う時間設定が少なく、知識技能の評価で80%以上の生徒が、自分の知識や技能を周りの生徒に伝える場を授業内で設定することができなかったことが課題である。 <話し合い活動の充実> ・保健の授業では話し合い活動を積極的に取り入れられたが、実技では運動量の確保と話し合い活動のバランスの調整が課題である。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・実技の授業展開で、個人のスキル向上の時間、チームで作戦や課題を思考する時間に別け、個人やチームの課題発見の場を設けるスパイラル学習を取り入れる。 <話し合い活動の充実> ・グループごとに役割分担をし、活動、審判(手伝い)、話し合いグループでローテーションを作り話し合い活動の時間を確保する。また、その際に話し合う内容のポイントを具体的に伝える。
技術・家庭	<思考力・判断力・表現力の育成> 調べ学習を行うと、AI やインターネットの回答をそのまま利用する生徒がおり、生成 AI の導入でそれが助長され、問題の解決策を考える力が低下する可能性がある。 <話し合い活動の充実> ・授業内容によって、話し合い活動が行いやすい場面とそうでない場面があり、十分に話し合い活動を行なうことが難しい。特に3年生は、授業時数が少ないため、苦慮することが多い。	<思考力・判断力・表現力の育成> 個人で要約し、考えをまとめ、他者に説明する活動を行うなど、AI に思考を任せるのではなく、個人や小集団でそれを活用し考えるように工夫する。 <話し合い活動の充実> ・座学の場面だけでなく、実習の授業においても、作業のポイントや反省を共有することで話し合いの機会を意図的につくるようにする。
外国語(英語)	<思考力・判断力・表現力の育成> ・アウトプット領域(とりわけ「書く」)において消極的な生徒や高度な日本語をそのまま英訳しようとして翻訳ツール等に過度に依存してしまう生徒が見受けられる。「既習の表現でどのように言い換えられるか」パラフレーズする思考力が不足している。 <話し合い活動の充実> ・単語や定型文のやり取り(一問一答)で会話が終わってしまい、相手の発言を受けて質問を返したり、自分の意見や理由を深く掘り下げて対話を継続させたりすることに課題がある。	<思考力・判断力・表現力の育成> ・単なる文法チェック(Accuracy)だけでなく、「工夫して伝えようとしたか」「既習表現を活用できたか」というプロセスを重視した評価基準を設定する。また、伝えたい内容の要点をとらえ、「噛み砕いて言い換える」活動を授業内に設定する。 <話し合い活動の充実> ・相づちや深掘りの質問(Follow-up questions)を行うストラテジー「対話継続の型」を常活動等で定着させる。相互評価を取り入れ、相手の意見を聞いて自分の考えを広げる思考プロセスを重視したやり取り活動を充実させる。

